

市史だより

# Gačiがちまや

第3号・2004年 11月 30日(水)発行

年 4回 (5・8・11・2月発行)

問い合わせ・情報提供先

☎ \* ( \* ☎ \* ☎

☎ (098)893-4431

Fax (098)893-4434

編集・宜野湾市教育委員会文化課 市史編集係

〒901-2710 宜野湾市野嵩1-1-2

[Kyoiku08@ami.city.ginowan.okinawa.jp](mailto:Kyoiku08@ami.city.ginowan.okinawa.jp)



大勢の参拝客で賑わう普天満宮(1971年)

みなさんは今年、初詣に出かけましたか？今年の神社への参拝客は64万6,000人になり、護国寺(那覇市)は県内で最も多くの参拝者が足を運びました。続いて成田山福泉寺(中城村)、波上宮(那覇市)、普天満宮(宜野湾市)の順となり、普天満宮には12万5,000人訪れました。

普天満宮は、かつて1644(尚賢王4)年に琉球国王の参詣が始まったという歴史を持ち、戦前は旅人の航海安全の願いや、旧暦9月15日の例大祭には多くの参拝者で賑わいました。また、境内で村遊びも行われたり、ピクニックに訪れる人びともおり、普天満宮は地域住民の集いの場だったのです。

現在の普天満宮は、老朽化によって本殿と拝殿の建て替え工事中です。拝殿は来年にも竣工の予定なので、来年の初詣には新しい拝殿を前に、新年を迎えることができるでしょう。みなさん、今から新年が待ち遠しくなり、ワクワクしてきませんか。



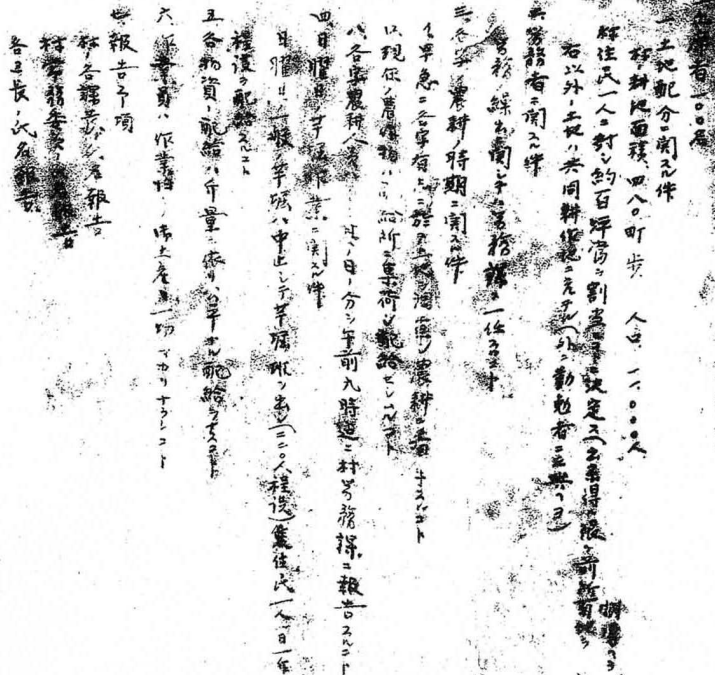
# 「区長会」を読む

1946(昭和21)年4月、宜野湾村の復活に伴って、村政会議が開かれるようになりました。今回は「区長会(自治会長会)記録」(以下、「区長会」と略記)を読んでみたいと思います。「区長会」は1946年から1959(昭和34)年にかけての区長(自治会長)さんたちの会議を中心に記録した資料です。と同時に、1948(昭和23)年4月までの宜野湾村政会議についても記録されており、きわめて史料的高いものです。

「区長会」にみられる最も古い時期の記録は、宜野湾村復活間もない1946年4月21日に始まります。当日の記録によると、「村有志會」が野嵩ハイスクールで開かれ、100名ほどの人びとが出席したとあります(資料1)。では、早速本文を読んでみましょう。「土地配分ニ関スル件」の項に「村住民一人ニ對シ約百坪當ヲ割当ルコトニ決定ス」とあります。今回はこの記述について少し考えてみたいと思います。

当時の宜野湾の人びとは戦争が終ってもなお収容所での生活を余儀なくされ、郷里へと帰ることができませんでした。かつての郷里は戦災によって荒れ果て、本島中部には広大な米軍用地が広がっていたからです。宜野湾村においては、村面積の約五割が米軍用地として接收されていました。そして戦前の土地台帳を戦火によって焼失してしまったことが、村民の「帰村」をさらに困難にしていきました。

そのため、暫定措置として「割当土地制度」が適用されました。「割当土地制度」とは住居・耕作のための土地を人びとへ一時的に割当てて、無償で貸与し使用させるものです。なお、割当てられた土地は「最終的な法的所有権に影響はない」とされました。



(資料1)村有志會をはじめ、戦後初期の会議録には食糧問題について最も多くの記述がみられます。

先ほどの「村住民一人ニ對シ約百坪當ヲ割当ルコトニ決定ス」との記述は、「割当土地制度」についての決定事項を伝えています。また、村住民に割当てられた以外の土地は「共同耕作地」とされました。「割当土地制度」は1951(昭和26)年まで有効でした。

「割当土地制度」が適用される一方で、土地所有権認定のための関係資料調査が始まります。これは戦前の地籍を調査し、戦前の土地の所有権を認定するための調査でした。1946年4月18日には沖繩諮詢会しじゅんかいから宜野湾村へ土地調査を指示する旨の文書が通達されました(資料2)。

沖繩諮詢会  
一九四六年四月十八日  
諮詢会總務部長

各市町村長殿

土地調査ニ関スル件

二月十八日琉球諸島米國海軍を政本部。指令ニ依リ沖繩本島(所屬離島ヲ含ム)ニ市三郡ニ對シ土地所有権決定ノ準備トシテ関係資料ヲ整理シ目的ヲ為土地所在ノ市町村長ハ村及字土地所有権委員會ノ調査又ハ記録ノ報告ヲ徵シ併セテ右委員會ニ於テ認定セル土地ヲ表示セル地圖ヲ當部へ報告スル様相成居候而シテ本調査遂行ニ當リテハ種々ノ困難ヲ伴フモノト被存候即戰災ニ因リ地形ノ變動ノ所有者ノ疎濶又ハ各出身地へノ移動未完了等ノ為早急ニ本事務ノ進捗ヲ見ルハ困難事ト思料セラル、本調査事務ノ迅速濟否ハ將來各人ノ所有権ニ最モ重大ナル影響ヲ與フルニシテ過般執行ノ沖繩土地整理以上ノ大事業ナルヲ以テ調査遂行ニ當リテ慎重考慮ノ上良ク本通牒ヲ詳本直ニ計畫ヲ樹立シタル後調査ニ着手シ而シテ村字土地所有権委員會ノ指導監督ニ任シ成ル可ク長日月ヲ要セズシテ調査ノ完璧ヲ期セラル、様御盡

615

(資料2)「土地調査ニ関スル件」の一部です。「沖繩土地整理以上ノ大事業」との記述が目を引きます。

各市町村には土地所有権委員会が置かれ、資料調査員には字の区長さんたちを中心に組織されました。もう一度「資料1」をご覧ください。村有志會の「各字ノ農耕ノ時期ニ関スル件」に「早急ニ各字有志ニ於テ土地ヲ調査シ農耕ニ着手スルコト」との記述がみられます。土地調査が農耕の再開にとっての重要な調査として位置付けられていたことが読み取れます。その土地調査には字の区長さんたちが大きな役割を果たしたのでした。

## ひとくちメモ

\* 沖繩諮詢会しじゅんかい…1945(昭和20)年8月15日、米軍政府の諮問機関として「仮沖繩人諮詢会」が設立される。同年8月29日以降、沖繩諮詢会となる。「民意を代表するための機関」とされた。



## オジーとオバーのユンタク話



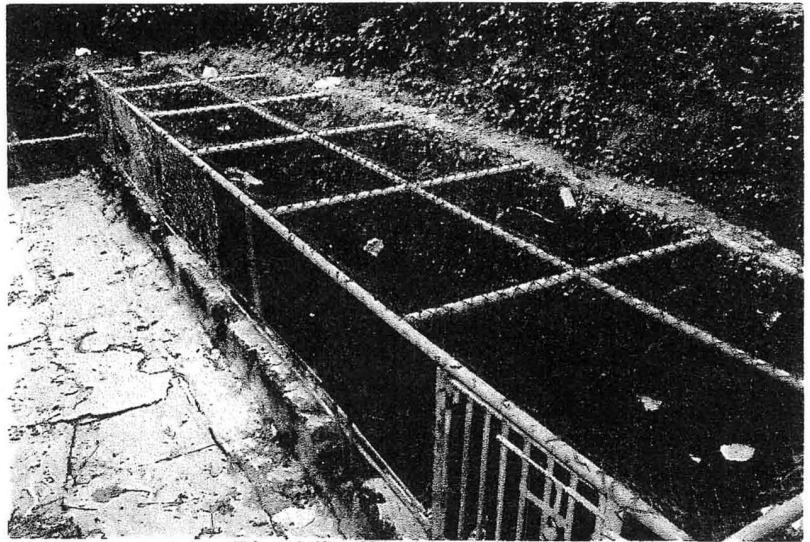
～聞き取り調査のこぼれ話～

現在、市史編集係では、野嵩収容所に関する聞き取り調査を行っています。そこで、野嵩収容所で生活を送ったことのある野嵩出身のオジー、オバー達からお話を伺ったときのエピソードをいくつかご紹介したいと思います。

野嵩は米軍上陸後、4月4日には収容所として使用されたようで、中南部での戦闘が激しくなると、すでに捕虜となり収容されていた人びとは、野嵩から北部方面へと移動させられました。他方、戦闘の激しかった那覇・島尻の住民が続々と野嵩へと連れて来られたのです。

収容所内では、軍作業に従事し、その対価として無償で食糧物資が配給されました。しかし、配給は週に一回と決まっており、常に食料不足に悩まされていました。また、

収容所では野嵩のクシヌカーやメヌカーを共同の生活用水として利用しており、水を得るためにこぞって、早朝、水汲みに出かけたそうです。しかし、かつては湧水も多く、水に恵まれていたと思われる野嵩は、あまりにも多くの収容民であふれ、すべての人びとに水は行き届かなかったことでしょう。そのため、水を求めて新城集落の湧水にも足を運ぶ人もいたそうです。



現在でも絶え間なく水の湧き出るクシヌカー

このように、オジー、オバーは自分の力で食料や水を確保し、懸命に生き抜いてきたのです。ユンタクをしてオジーとオバーのたくましさを知ると同時に、元気をもらった気がします。当時の様子を知るためにも、実際にクシヌカーに足を運んだり、オジーやオバーとユンタクをして、当時のお話を聞いてみるのもよいでしょう。そうすることで、モノであふれかえる私達の豊かな生活を見つめ直してみてもいいのではないでしょうか。

### 市史編集係からのお願い！

今後も、宜野湾市の戦後の復興について各字での調査を予定しておりますので、その際は御協力よろしくお願い致します。また、ご自宅に眠る昔の写真や書簡などがございましたら、下記連絡先までご一報ください。貴重な資料となったそれらを今後、生かしていきたいと思っております。

連絡先：文化課市史編集係 ☎ 098 - 893 - 4431 / fax 098 - 893 - 4434

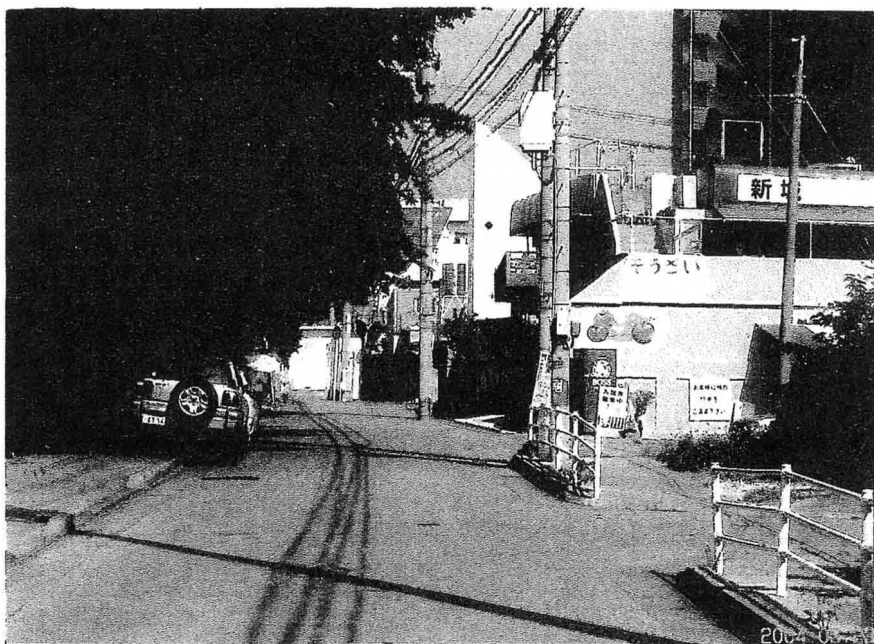


## ●シリーズ歴史の道③

# ケービン鉄道 Part2～大謝名駅・真志喜駅～

前号では、大山を通るケービン道を紹介しました。今回は、大謝名駅と真志喜駅にかかるケービン道を紹介しましょう。1922（大正 11）年に沖縄県営鉄道（軽便鉄道）嘉手納線が敷設され、宜野湾村には大謝名駅・真志喜駅（駅の設置は 1923 年）・大山駅が置かれました。大謝名駅と真志喜駅は、大山駅と比べて小さな駅でした。

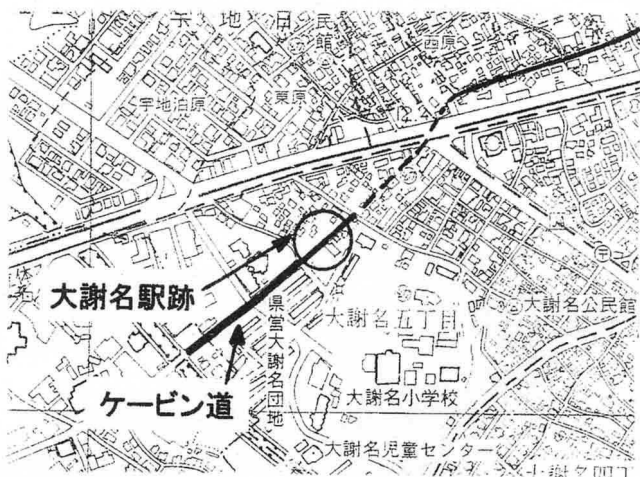
大謝名を通るケービン道跡は、現在の浦添市牧港にあるボウリング場前や県営大謝名団地 4 号棟と 5 号棟前の道路にあたり、大謝名駅は大謝名五丁目 23 番地 2 一帯にありました。線路はこの通りから現在の国道 58 号、大謝名交差点を抜けて西側の大謝名を通過し、真志喜へ続いていました。真志喜駅は現在の大山六丁目 7 番地と 10 番地との間を通る道一帯にありました。この道を進むと大山タイモ畑が一望できる道、すなわち前号で紹介した道へとつづきます。



かつての大謝名駅付近(現在の大謝名五丁目)

大謝名駅と真志喜駅との間は、区画整理などによって民家が立ち並び、線路跡もわかりにくくなりました。それと

同じように地形も変化しました。中でも現在の県営大謝名団地や大謝名小学校一帯は港田原と呼ばれ、低地になっていました。そこでは 1970 年代前半まで水田が広がり、稲作（のちに田芋栽培に変わります）が行われていました。戦前、大謝名駅にむかう車窓からは、畑や田園風景が見えるのどかな光景が広がっていたのです。



地図：ケービンミチの跡 左：大謝名駅付近、右：真志喜駅付近

# ☆ Enjoy 比較文化 ☆

「比較文化」などと漢字が四文字も並ぶと、なんだか、難しいことのように聞こえるかもしれませんが、じつはその題材は、私たちの身近なところに、たくさん転がっているのです。意外と気づかない、ちょっとした文化や習慣の違いを、一緒に探してみませんか？

グループ分け・・・みなさんは、遊びなどでグループを分けるとき、ジャンケンの型を使って分けますか？それとも手のひらの表と裏？そして、手を同時に出し合うための掛け声は、どんな言葉ですか？同じ宜野湾市内に住んでいても、字によって違うかもしれませんし、また、今の子どもと、お父さん・お母さんたち、さらにはおじいちゃん・おばあちゃんたち、といった年代の違いによっても違いがあるのではないのでしょうか？ふだんは当たり前になりすぎていて疑問に思わないことも、お互い、情報交換をしてみると、びっくりするような発見があるかもしれません。ちなみに私たちの職場の中でたずねて回っただけでも、たくさんの例が出てきましたのでご紹介します。

## ☛ ジャンケン派

- ◇ 「ウフサヌ勝ち！」 〈 50代女性 ・ 西原町出身 〉
- ◇ 「グーパージャン！」 〈 40代男性 ・ 東京都出身 〉
- ◇ 「グッパでホイのホイのホイ！」 〈 30代女性 ・ 奈良県育ち 〉
- ◇ 「グーチョー、ヨシ！（もしくはグーチョー、ヤイ！）」 〈 30代男性 ・ 東京都出身 〉

## ☛ 手のひら表・裏派

- ◇ 「シーロクロ！」 〈 20代男性 ・ 宜野湾市(上原)出身 〉
- ◇ 「多いほうが勝ちだよ！」 〈 20代女性 ・ 古宇利島出身 〉
- ◇ 「ウーウー、ウーサニカタジキリ！」  
「スーソー、少ないカタジキリ！」 〈 30代女性 ・ 中城村出身 〉
- ◇ 「シロとクロの多いほうが勝ち！」 〈 20代女性 ・ 沖縄市出身 〉
- ◇ 「スーソー、少ないカタジキリ！」 〈 30代男性 ・ 那覇市出身 〉
- ◇ 「クー、クー、ク〜ロシロ！」 〈 50代男性 ・ 宜野湾市(嘉数)出身 〉
- ◇ 「オーオー多いなかま！」 〈 50代女性 ・ 宜野湾市(大謝名)出身 〉
- ◇ 「スーソー、少ないなかま！」 〈 30代女性 ・ 宜野湾市(野嵩)出身 〉



## ☛ ジャンケン／手のひら表・裏 併用

- ◇ 「スーソー、スーソー、スクナヌカタジキリ！」  
「グーとパーと、グーとパーと、グ〜とパー！」 〈 30代男性 ・ 浦添市出身 〉
- ◇ 「スーソー、少ないものから抜け！」  
「ジャン、ジャン、ジャンケンポン！」 〈 30代男性 ・ 具志川市出身 〉

◇ 「スースー少ないが勝ち！」

「ゲーかパーで分かれましょ！」 〈 20代男性 ・ 浦添市出身 〉

◇ 「スースー少ないの勝ち！」

「シーロクロ！」

「ゲーとパーで分かれましょ！」 〈 20代男性 ・ 大里村出身 〉

手のひらの表と裏を使う方法は、沖縄以外では今のところ聞いた例が無い、という結果が出ました。それを裏付けるかのように、ジャンケン派は、ほぼ他府県出身者で占められ、県内出身者のほとんどが、手のひら表・裏 派もしくはジャンケン/手のひら表・裏 併用 に当てはまりました。ジャンケン派に入った方も、掛け声だけは手のひら表・裏 派に似ていますよね。

これらは、ほんの一例ですが、声に出して読んでみるだけで楽しいような掛け声が、たくさんありますね。みなさんの場合はどうですか？周囲の人たちにたずねてみると、面白いやり方や掛け声が、もっともっと出てくるかもしれませんよ(^\_-)~☆

## ✿ 新城申年まーるあしび ✿

去った11月7日の日曜日、新城申年まーるあしびが開催されました。新城では申年と寅年(6年ごと)の種子取の日に「村芝居」が行われ、それがこんにち、まーるあしびとして受け継がれています。戦前のムラアシビは、予行練習から慰労会まで含めると5日間にわたった盛大な行事だったそうです。今年行われた申年まーるあしびでは、道ジュネーの後、舞台上で15もの演目(踊りや芝居、組踊りなど)が披露され、プログラムに載っている出演者の延べ人数だけでも、子どもから大人まで208名が晴れの舞台上で活躍していました。どの出し物もなかなか見事で、会場からは折々に盛大な拍手もわき起こり、掛け声も飛びかかっていました。見物に来た人たちは、自分の友達や知り合いの晴れ姿を大いに楽しんだことでしょう。



道ジュネーに参加した子どもたち

遊びざかりの子どもたちにとっては、度重なる練習はつらいものかもしれません。でも、きっといつか、自分がこういった行事に参加したことを誇りに思う日がくることでしょう。昔から受け継がれてきた6年に一度の晴れ舞台、次の寅年に舞台上に立っているのは誰でしょうか。

宜野湾市がつくった

# 「本」の人気ランキング Best3 -2004年-

2004年に最も売れた本を、ランキング形式で発表します！



**Best 1**

～大人から子どもまで楽しめる”自然”の入門書～

『ぎのわん自然ガイド[第2版]』 ¥1,000(税込)

宜野湾市の自然を知りたいならコレ！

市内の地形・植物・昆虫・動物…など分かりやすく解説。  
フルカラー写真で見ただけでも楽しい、おすすめの一冊。

**Best 2**

～平和教材に最適な戦跡の入門書～

『ぎのわん市の戦跡[第2版]』 ¥500(税込)

宜野湾市には、いったいどれだけの戦跡があるのだろうか？  
慰霊の塔を中心に弾痕の跡や避難壕など、貴重な写真も  
おりませて解説。現場観察に最適なポケットサイズで、  
平和学習教材としても好評！



**Best 3**

～各字<sup>あざ</sup>で行われた年中行事を<sup>いま</sup>現在に伝える～

『村芝居 -ぎのわんのムラアシビ』 ¥1,000(税込)

農村で稲の収穫を神に感謝するための祭として、また一種の  
村遊びとして行われていた踊りや芝居、それがムラアシビ。  
本書は、宜野湾市内の野嵩・新城・普天間などで行われる  
ムラアシビ(村芝居)についてまとめた貴重な一冊。



※ この他に市史1～9巻・写真集など、宜野湾市の歴史・文化・自然に関する本がまだまだありますので、ぜひ、お求めください。詳しくは、文化課市史編集係 ☎:(098)893-4431  
まで！